

令和3年度事業報告書

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

令和3年度事業報告書

(一般社団法人 長野県自動車販売店協会)

【事業総括】

令和3年度は、国外では、新型コロナウイルス感染症の世界規模の感染拡大が既存の社会構造や国際秩序の不安定化を引き起こすとともに、特に2月のロシアによるウクライナ軍事侵攻は、非人道的行為として世界中から非難されロシアの孤立化を深め、先行き不透明な情勢が続いた。

一方国内では、新型コロナウイルスの感染拡大により4月には第4波、6月下旬からは第5波が襲い、8月20日に全国で25,851人の新規感染者を記録するなど猛威を振るった。11月からは感染者が激減したものの、12月には新たな変異ウイルスオミクロン株が確認され、年が明けるとこれまでより格段に大きな第6波が到来し、1月27日には全国31都道府県を対象としたまん延防止等特別措置が発令され、リーマンショック以上の経済危機に直面した。

特に、自動車産業にとっては、中国はじめ、海外の生産工場にとどまらず国内の工場でも生産がストップし、新車販売台数の落ち込みが顕著となった。

その結果、全国では、登録車の新車販売台数が2,684,610台と昨年に続き300万台割れとなった。

長野県でも登録車の新車販売台数が4万6,418台と前年比マイナス12.1%と厳しい状況となった。

このように、自動車販売業界が一段と厳しい市場環境の下に置かれている中で、持続的に安定的な発展をしていくためには、ユーザー本意の経営に徹し、顧客満足度の一層の向上に努めることが重要であり、益々複雑・多様化する経営環境の下で、的確に市場の流れをつかみ、安全・環境対策、コンプライアンス、人材育成等、視野を広く保ちながら新しい時代に則した強固な経営体質を築き上げていくことが求められた。

このような情勢の中、協会としては、「地域環境に優しい安心な街づくり」と「快適な交通事故のない安全で明るい街づくり」の推進を基本方針に、関係行政機関をはじめ関連団体等と緊密な連携を図りながら事業活動の推進に取り組んだ。

協会事業の具体的な推進内容・実施結果等については、次頁以下のとおりである。

第1 消費者問題に対する調査・支援事業

1 ユーザーの意見を聞く懇談会の開催

懇談会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、開催を中止とした。

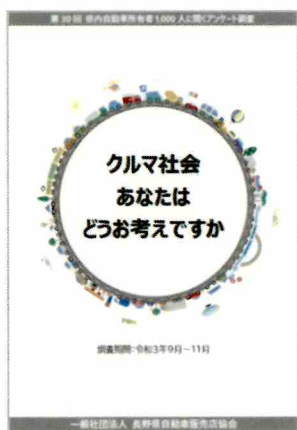
2 交通安全・環境保全・自動車販売等に関するアンケート調査事業(第30回目)

(1) 実施概要

今回は、自動車販売、点検整備、次世代自動車、防犯対策、交通安全、環境に関する要望・意見について、令和3年9月から11月の間に、県下各販売店に来店したユーザー1,000人を対象にアンケートを依頼し実施した。

(2) 結果概要

- ① 回答者数は605名、うち男性は66.4%、女性は30.6%で、年代別の回答者では、40代の回答者が最も多く25.5%、次いで50代、30代の順に回答者が多かった。
- ② 自動車購入等に関するものでは、「スタイル」を重視する人が46.3%でトップを占め、次いで「メーカー」「燃費の良さ」の順となっている。
年代別では、40代以下が「スタイル」、50代・70代が「メーカー」、60代が「安全性能」を重視しており、年代によって意見が分かれる結果となった。
- ③ 現在所有している車は何年使用しているかとの問いでは、「3年未満」が42.1%で最も多く、次いで「3年～5年」が21.3%、「5年～7年」が17.0%という結果となった。
- ④ 回答状況と分析結果を資料として取り纏め、会員社や関係団体等へ配布するとともに、協会ホームページにも掲載した。



回答結果資料



協会ホームページ

第2 交通安全と福祉増進並びに教育振興支援事業

1 交通弱者を対象とした交通安全教室の開催

交通安全教室の開催は、大切な命を悲惨な交通事故から守り、安全で快適な生活を送るための支援活動の一環として、協会が委嘱した特別交通指導員7名により、保育園、小中学校等からの要望に基づき計画的に実施した。

(1) 対象別回数・受講者数

保育・幼稚園児34回 2,147名、小学生24回 7,790名、
中学生4回 599名、高齢者11回 440名、一般2回 63名
コロナによる中止 12回

計 75回 11,039名

(2) 開催地

北信地区16箇所、東信地区43箇所、中信地区14箇所、南信地区2箇所

(3) 開催概要

- ① 開催数は、保育・幼稚園児に対するものが最も多く、全体の45.3%を占めており、受講者は小学生が最も多く、全体の70.5%を占めた。
- ② 保育・幼稚園児の交通安全教室では、『楽しみながら命の大切さと事故の恐ろしさを学ぶ』をモットーに、交通ルールやチャイルドシートの必要性などを伝えた。
また、小中学生には、ダミー人形を使っの衝突実験や車の死角、内輪差について身をもって感じることができる体験型安全教室の実施に努めた。
- ③ 高齢者対象の交通安全教室では、高齢者事故が増加していることから、交通事故の被害者と加害者の両面から見た事故防止について、腹話術や寸劇を通じ、交通ルールを再認識できる教室を実施した。また、多発する“特殊詐欺”の被害者にならないため、寸劇等を通じ犯罪予防の意識付けにも努めた。



腹話術での教室の様子



ダミー人形を使っの衝突実験

2 交通事故防止を図るためのセーフティアドバイザーの育成と「ふれあいコーナー」の活用

(1) 活動状況

会員社の拠点毎に選任された「セーフティアドバイザー」が中心となり、全従業員が正しい交通ルールを学び実践するとともに、各販売店ショールーム等に開設された「ふれあいコーナー」を活用して来客ユーザー等に交通事故防止のための啓発活動を実施した。

(2) セーフティアドバイザー研修会の開催

セーフティアドバイザーの交通安全意識の高揚と活動の活性化を図るため、県内2か所で研修会を開催した。なお、新型コロナウイルス感染症対策として密を避けるため、両会場で午前午後の2回開催とした。

① 開催日・場所・参加人員

- ・ 令和3年7月6日（火）午前の部
中南信ブロック 38名
- ・ 令和3年7月6日（火）午後の部
中南信ブロック 28名
- ・ 令和3年7月8日（木）午前の部
東北信ブロック 40名
- ・ 令和3年7月8日（木）午後の部
東北信ブロック 25名

② 講師

県警交通部交通企画課	担当者
県交通事故相談所	所長
日本自動車連盟長野支部	担当者



中南信会場



東北信会場

(3) 交通事故統計等資料の配布と活用

長野県警察本部交通部から提供される交通安全啓発資料等を、協会情報紙「NADA MAGAZINE」にて掲載し、各会員社へ配信した。

各会員社では、従業員や来店者等に対する交通事故防止に向けた指導・啓発資料として活用した。

3 全国交通安全運動等における交通安全街頭指導活動の推進

(1) 街頭指導活動の展開

春・夏・秋・年末の年4回の交通安全運動期間中の一斉街頭活動は、コロナ禍により多くは中止となったが、街頭指導所において、地区流通合理化委員（大型含む）が、関係警察署並びに各地区交通安全協会等と連携をとりながら交通安全の啓発活動に従事した。

① 街頭活動実施回数

春：5か所	64名
夏：5か所	62名
秋：4か所	60名
年末：3か所	33名
<u>出動人員 延べ 17か所 219名</u>	

② 啓発用品の配布

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、配布品なし。

(2) 新聞広告等による啓発活動

春：信濃毎日新聞、中日新聞、日刊自動車新聞を含む5回

夏：信濃毎日新聞1回

秋：信濃毎日新聞、中日新聞、日刊自動車新聞、長野日報を含む5回

年末：信濃毎日新聞1回

4 特別交通指導員研修会の開催

交通安全教室に携わる特別交通指導員及び協会従事者の技能向上に向け、研修会等への積極的な参加に努めた。

- (1) 関東・甲信越ブロック交通ボランティア等講習会(オンライン講習会)
開催日 令和3年9月15日(水)
主催 内閣府 受講者数 3名
- (2) 令和3年度交通安全指導者養成講座(オンライン講習会)
開催日 令和3年12月6日(月)～8日(水)
主催 内閣府 受講者数 1名
- (3) 令和3年度交通安全教育指導者研修会(オンライン講習会)
開催日 令和4年2月18日(金)
主催 一般財団法人日本交通安全教育普及協会 受講者数 1名
- (4) 令和3年度チャイルドシート指導員養成研修会(オンライン講習会)
開催日 令和4年3月14日(月)
主催 一般財団法人日本交通安全教育普及協会 受講者数 1名

5 シートベルト・チャイルドシート100%着用に向けた啓発活動の強化

全席のシートベルト着装とチャイルドシートの普及・着装に向けた広報啓発活動を実施した。

- (1) 園児・保護者を対象としたシートベルト・チャイルドシート講習の実施
交通安全教室開催時に、園児や園職員及び保護者を対象としたシートベルト・チャイルドシート装着講習を34回実施した。
- (2) 交通安全教室におけるチラシ等の配布
交通安全教室の開催に伴い、シートベルト及びチャイルドシート着装に関するチラシ等を配布した。
- (3) 新聞・テレビによる広報活動
年4回の交通安全運動における広報及び会員各社の広報宣伝活動の中で、「子どもと高齢者の交通事故防止を家族・地域ぐるみで推進しましょう。」の標語を挿入した広報宣伝活動を実施した。

6 自動車点検整備の推進

例年、サービス部会各地区委員会が中心となり開催している高齢者及び女性を対象としたマイカー点検教室は、昨年と同様、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、実施できなかった。

7 交通事故ゼロ活動並びに教育振興活動への支援協力

- (1) 高齢者に対する交通安全教室の開催
市町村、社会福祉協議会、地区老人会等の協力を得て、高齢者に対する交通ルールの再認識と交通マナー習得を目的とした高齢者交通安全教室を、感染症対策を講じ開催した。

中信地区 11回 参加人数 440名



高齢者への交通安全寸劇

(2) 乳幼児を持つ主婦層に対する交通安全教室の開催

開催場所 東信地区保育園及び幼稚園 3 回

参加人数 保護者 65 名

(3) 高校生交通安全CMコンテスト事業への協賛

CM コンテストは、7 月から 9 月に応募のあった 8 校 23 作品（テレビ部門 13 作品、ラジオ部門 10 作品）を、新型コロナウイルス感染拡大防止の為例年の会場審査ではなく、収録した DVD により審査した。

○ グランプリ作品

・ テレビ部門グランプリ 大町岳陽高等学校 「黄色信号は〇〇の合図」

・ ラジオ部門グランプリ 松本国際高等学校 「くるまの気持ち」

入選作品には表彰を行うとともに、各部門の上位入賞作品は SBC 放送を通じて交通安全スポット CM として放映した。

(4) 高齢者ヘルメット着用促進モニター事業への協賛

平成 29 年から以降毎年、高齢者による自転車乗車中の死亡事故のうち約 6 割が頭部に怪我を負っていることから、高齢者を対象としたヘルメット着用モニター事業が実施され、その事業への協賛を行った。

○ モニター参加者

県内在住の高齢者 73 名（男性 38 名、女性 35 名）

(5) 公益財団法人日本自動車教育振興財団への支援・協力

クルマ社会の健全な発展を目指し、県内の高等学校の教員や生徒を対象とした自動車に関する技術、交通、環境に関する研修会及び交通安全教室へ、JAF 教育担当講師等の派遣を行った。

県内での研修は、小諸高校、東海大付属諏訪高校、飯田高校、下伊那農業高校、清泉女学院中学・高校、高遠高校の 6 校で、長野県自動車教育推進協議会である当協会が日本教育振興財団とタイアップして実施した。

(6) サポカー体験会の実施

高齢者ドライバーによる交通事故の割合が増加していることから、サポカーの普及による交通事故防止に資するため、会員社の協力の下、サポカー体験会を実施した。

○ 開催状況

・ 申込件数 14 件 ・ 実施 7 件 ・ 中止 7 件 ・ 参加人数 約 240 名

* 新型コロナウイルス感染警戒レベル 4 以上で中止とした。



サポカー体験会の様子

第3 防犯活動と環境保全助成事業

1 地球環境保全活動への参加・支援

- (1) 地球温暖化防止運動や循環型社会形成に向けて取り組む「信州豊かな環境づくり県民会議」、「一般社団法人長野県環境保全協会」、「公益財団法人長野県緑の基金」の活動を支援する形で助成活動に取り組んだ。
- (2) 長野県環境部主催の「長野県キッズISOプログラム事業」では、子どもたちが省エネ活動に取り組みながら環境について自ら考え、実行する力を養えるプログラムの普及に向けた取り組みへの支援・助成を行った。

① 子どもたちの取組

参加小中学校 6校 児童数 延べ260名 (入門編192名、初級編34名、FORSCHOOL編34名)

② 協力企業・団体 20社・団体

2 長野県主催「信州環境フェア」、「南信州環境フェア」への参加・協力

- (1) 信州環境フェア2021は、新型コロナウイルス感染症対策等の観点から、規模を縮小し、長野市役所市民交流スペースと長野市芸術館アクトホールでの開催となった。このため、環境適応車等の展示スペースが確保できない為参加を見送った。
 - (2) 南信州環境メッセ2021では、会員販社7社の次世代自動車を展示した。
- 会場では、環境に配慮した車の仕組みや災害時の非常用電源としての活用等、来場者に次世代自動車の魅力をアピールした。

開催日 令和3年12月4日(土)、5日(日)

場所 エス・バード(飯田市座光寺)



南信州環境メッセの様子

3 安全で環境に優しいクルマの普及を推進する啓発活動

- (1) 自販連長野県支部と共催の「信州カーディーラー中古車フェア」は、コロナウイルス感染拡大の影響により、両会場共に会場型から店舗型へ変更し開催をした。

① 長野開催

開催日程 令和3年6月19日(土)～27日(日)の9日間

参加社数 東北信地域 11社 46店舗

目標台数 300台

成約台数 266台

② 松本開催

開催日程 令和3年10月23日(土)～31日(日)の9日間

参加社数	中南信地域	11社	42店舗
目標台数		270台	
成約台数		199台	



長野開催の様子



松本開催の様子

- (2) 協会ホームページに、「次世代自動車の種類と特徴」、「エコドライブの実践方法」、などについて掲載し、安全且つ環境に優しい自動車の普及宣伝に努めた。

4 環境問題対策並びに環境保全活動の支援

- (1) 環境に優しい優良自動車整備事業場表彰は、令和3年11月9日(火) ホテルメルパルク長野で開催され、受賞した会員社は、1社1事業場で、株式会社ホンダカーズ松本東城北店が長野運輸支局長表彰を受賞した。
- (2) 第41回を迎えた指定自動車整備事業場の自主監査事業では、新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施が危惧されたが、サービス部会委員を中心に、県内指定工場235拠点に対し監査を実施し、その結果を第3特別委員会が取り纏め、各社サービス部長及びサービス部会地区委員長宛に文書にて報告を行った。
- (3) 環境美化活動の実施結果

長野県、市町村が主唱する信州環境美化運動キャンペーン(地域クリーン作戦)に協力・参加し地域の環境美化に努めるとともに、環境美化活動の輪を広げるための啓蒙活動に取り組んだ。

① 春季実施

期 間 令和3年5月30日～6月30日の間

参加団体

- ・ 会 員 19社 272拠点
- ・ 長野県自動車販売店協会
- ・ 日本自動車査定協会長野県支所
- ・ 長野県自動車販売店健康保険組合
- ・ 日本自動車連盟長野支部(JAF)
- ・ 長野県中古自動車リサイクルセンター



協会周辺道路の清掃活動

② 秋季実施

期 間 令和3年10月1日～10月31日の間

参加団体

- ・ 会 員 23社 297拠点
- ・ 長野県自動車販売店協会
- ・ 日本自動車査定協会長野県支所

- ・ 長野県自動車販売店健康保険組合
- ・ 日本自動車連盟長野支部(J A F)
- ・ 長野県中古自動車リサイクルセンター

5 使用済自動車等のリサイクルによる循環型社会形成の実践

- (1) 長野県中古自動車リサイクルセンターを軸に、循環型社会の形成を目指し、各組合員との連携強化の下、使用済自動車入庫促進に努め、使用済自動車のフロン回収、解体並びに処理部品の再利用化に向けた取り組みを行った。
- (2) 自動車リサイクル法の主旨に則り、これを忠実に実行している長野県中古自動車リサイクルセンターは、その基本理念である『環境保全、安全と効率、公害防止』を最重点にリサイクル率100%を目指し、自動車リサイクル法を始めとした各種法令の遵守を基本に、広く県民に対し廃棄物の適正処理とリサイクルの有益性について広報・啓発活動を実施した。



リサイクルセンター外観



施設見学の様子

- (3) 令和3年度における協同組合長野県中古自動車リサイクルセンターへの施設見学者は、新型コロナウイルス感染の懸念から昨年同様申し込みが減少したものの、(株)スズキ自販長野社長様御一行様を皮切りに、名古屋市からはトヨタ自動車(株)カスタマーファースト推進本部御一行様、さらには夏休みの自由研究課題として小学生を含むご家族2組の見学のほか、リサイクルへの関心の高まりから県下の各小学校の皆様、取り分け上水内郡飯綱町の三水小学校6年生にあっては修学旅行研修先の一つとして来訪されるなど総勢20団体266名の見学があり、創業以来997団体、10,697名の見学者となった。

6 事業所防犯・暴力追放啓発活動の支援

- (1) 不当要求防止責任者講習会

会員社で、自動車販売をめぐる反社会勢力からの不当要求行為に適切な対応が図れるよう、各社の不当要求対応責任者による講習会を企画したが、新型コロナウイルスの急拡大により、開催を中止とした。

- (2) 犯罪・暴力のない社会環境作りに寄与するための支援

地域社会の防犯活動並びに暴力追放啓発活動に尽力している長野県防犯協会連合会をはじめ関係団体に対する助成と、会員社における自主防犯活動並びに暴力追放運動に対する啓発活動に努めた。

第4 オートオークション事業(収益事業)

1 オートオークション事業を運営する会議の開催

(1) 中古車部会の開催

令和3年8月6日(金)にホテルメトロポリタン長野で開催し、前年度開催結果、運営方法、運営課題等について検討した。

(2) 中古車部会並びにオートオークション実行委員会合同会議の開催

令和3年12月23日(木)にホテルメトロポリタン長野で開催し、中古車フェア事業計画、令和4年度オートオークション開催計画等について検討した。

2 オートオークションの開催

(1) 開催回数 7回(令和3年8月～9月、令和4年2月～3月開催については、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、中止)

(2) 開催概要(令和3年4月～令和4年3月)

項 目	令和3年度	令和2年度	対 前 年 比
開 催 回 数	7 回	7 回	100.0%
出 品 台 数	1,518台	1,546台	98.2%
成 約 台 数	1,434台	1,402台	102.3%
成 約 率(平均)	94.5%	90.7%	+3.8%
総 売 上 高	315,195千円	307,325千円	102.6%
台当単価(平均)	220千円	219千円	100.5%
参加人員(平均)	99人	103人	96.1%
評価点(平均)	2.51点	2.75点	-0.24点

(3) 開催総括

落札会員の参加を促すべく設置した「スターコーナー」は、実施6年目となり、今年度の出品台数は122台、成約台数は104台、成約率が85.2%、総売上高が87,530千円となった。

引き続き、ディーラー出品の利点を生かし、会員社・協会双方にとって有益なオートオークションとするため質の高いオークション運営に努めていく。



出品車両

3 コンダクター等研修会の実施

研修会回数 7回

コンダクター6名

オークションの成約率を高めるため、コンダクターの技術向上に向けた研修会を継続的に開催した。



セリの様子